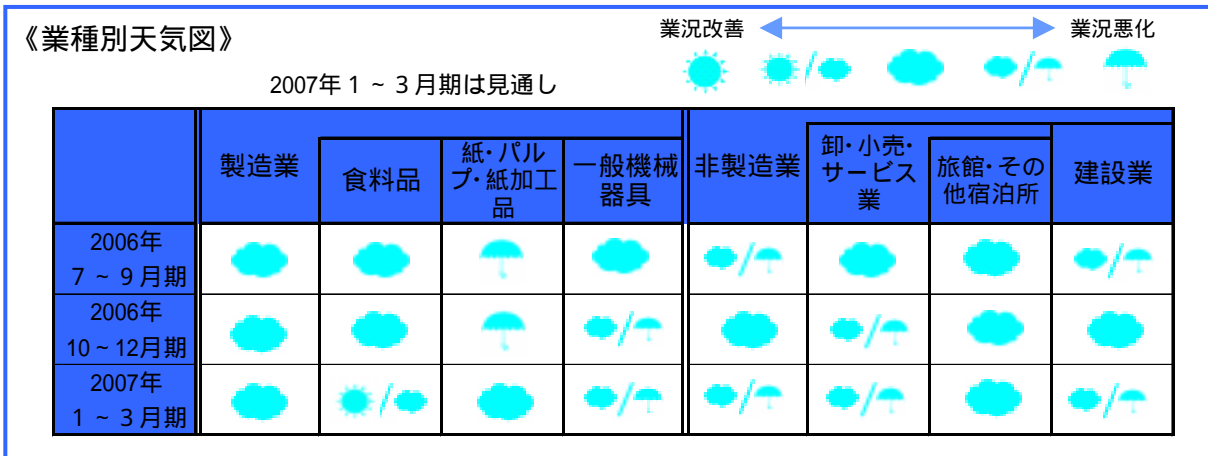
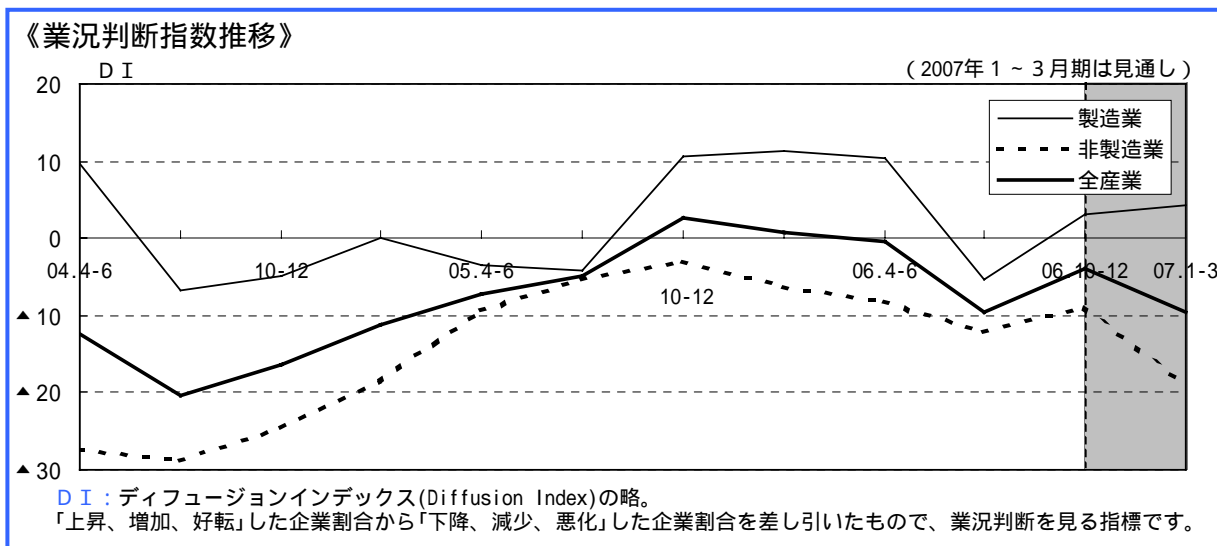


業況概要(自社) ～全体DIは反転上昇、製造業は再びプラスに～

静岡県東部地域における2006年10～12月期の業況判断DIは、全産業で▲3.9(前期▲9.5)と前回調査時と比較して改善し、上昇に転じた。原油の価格上昇が一段落したことなどから、原材料価格の高騰等に対する企業の懸念はやや弱まっている。特に製造業の業況判断DIは3.2(同▲5.4)とプラスに転じ、企業マインドに影響を及ぼしていることがうかがえる。なお、非製造業は、▲8.9(同▲12.2)となり、やや改善はみられるものの製造業との差が目立っている。



《調査の概要》

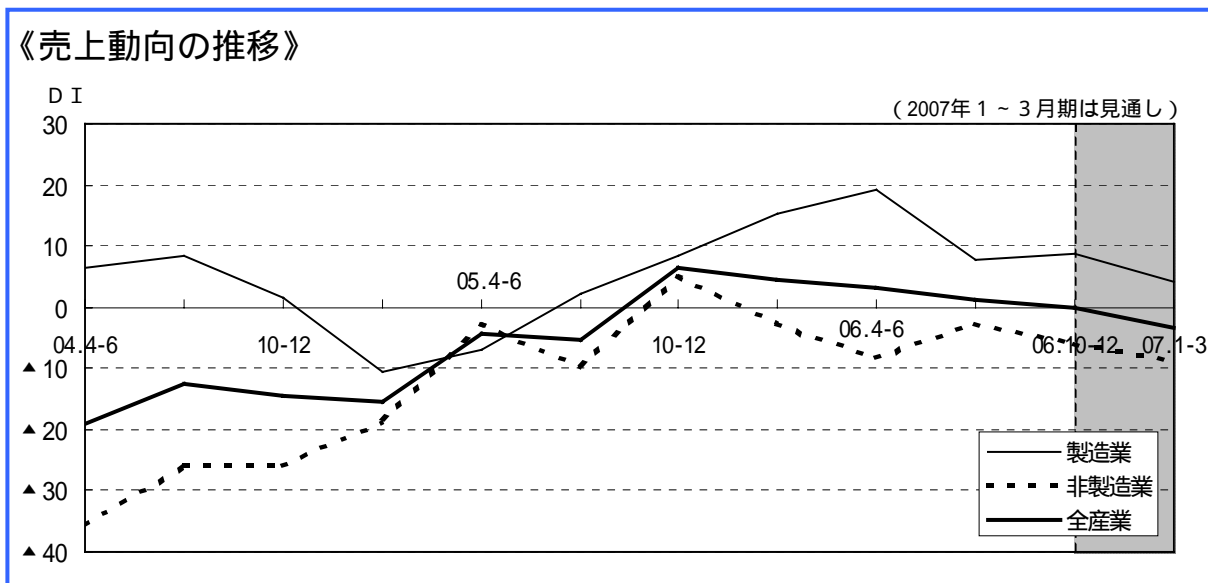
- | | |
|--|--|
| 1. 調査目的
静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握 | 3. 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査 |
| 2. 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 840社
回答数229(回答率27.3%)
業種別企業数は4ページ下段図表を参照 | 4. 調査対象期間
実績:2006年10～12月期
見通し:2007年1～3月期 |
| | 5. 調査時点
2006年12月 |

売上動向

製造業のD Iは若干回復に転じるも、非製造業はやや低下

2006年10～12月期の全産業の売上動向D Iは0.0（前期1.3）と前期比若干低下した。うち、製造業では食料品や金属製品でD Iが上昇したため、全体でも8.6（同7.6）と緩やかながら回復した。一方、非製造業では、旅館・その他宿泊所で42.9（同20.0）と大幅に上昇、建設業も若干上昇したが、回答企業数の多いその他小売・サービス業が低下（前期1.9 今期▲3.3）したため、全体でも▲6.0（同▲2.7）と悪化した。

2007年1～3月期（見通し）の予想D Iは全産業で▲3.5と、2006年10～12月期よりやや低下が予測されている。製造業、非製造業とも低下を見込んでおり、先行きへの見方に厳しさがうかがえる。

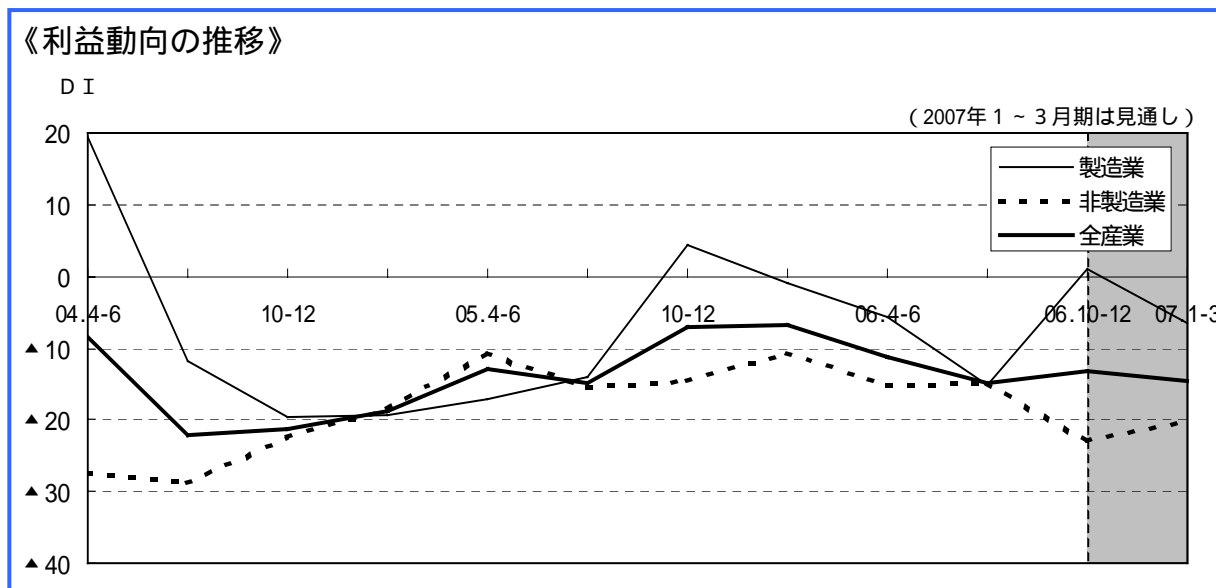


利益動向

製造業は大幅上昇でプラスに、非製造業はD Iがさらに低下

2006年10～12月期の全産業の利益動向D Iは▲13.1（前期▲14.9）で前期より若干ではあるが改善した。うち、製造業は売上動向同様、食料品や金属製品でD Iが大幅上昇し、全体でも1.1（同▲15.1）とプラスに転じた。一方非製造業は、その他小売・サービス業等、建設業で大幅な低下がみられ、全体でも▲23.0（同▲14.9）とD Iはさらに低下した。

2007年1～3月期（見通し）のD Iは、全産業で▲14.5と今期比低下が予測されている。うち製造業では▲6.4と再び低下し、持続的回復への期待は薄い。また非製造業も依然低水準での推移が予測されている。

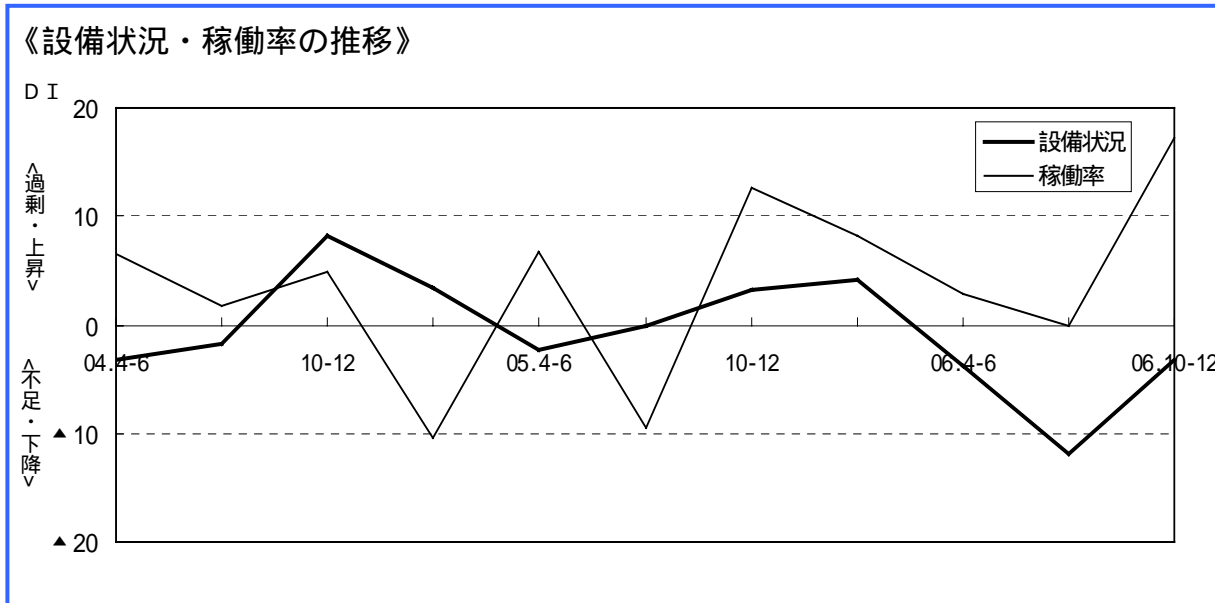


**設備状況・稼働率
(製造業)**

設備状況は「不足」感が解消傾向、稼働率は大幅に「上昇」

2006年10～12月期の設備状況DIは▲3.2(前期▲11.8)とDIは上昇に転じ、不足感は解消傾向にある。食品は「不足」感が強まっているが、一般機械器具、その他製造業では「不足」から一転して若干「過剰」に転じている。

一方、稼働率DIは17.2(同0.0)と2005年10～12月期以来の高い水準となった。食品でDIが若干低下し「下降」状態が継続しているが、その他の業種はいずれもDIが上昇している。

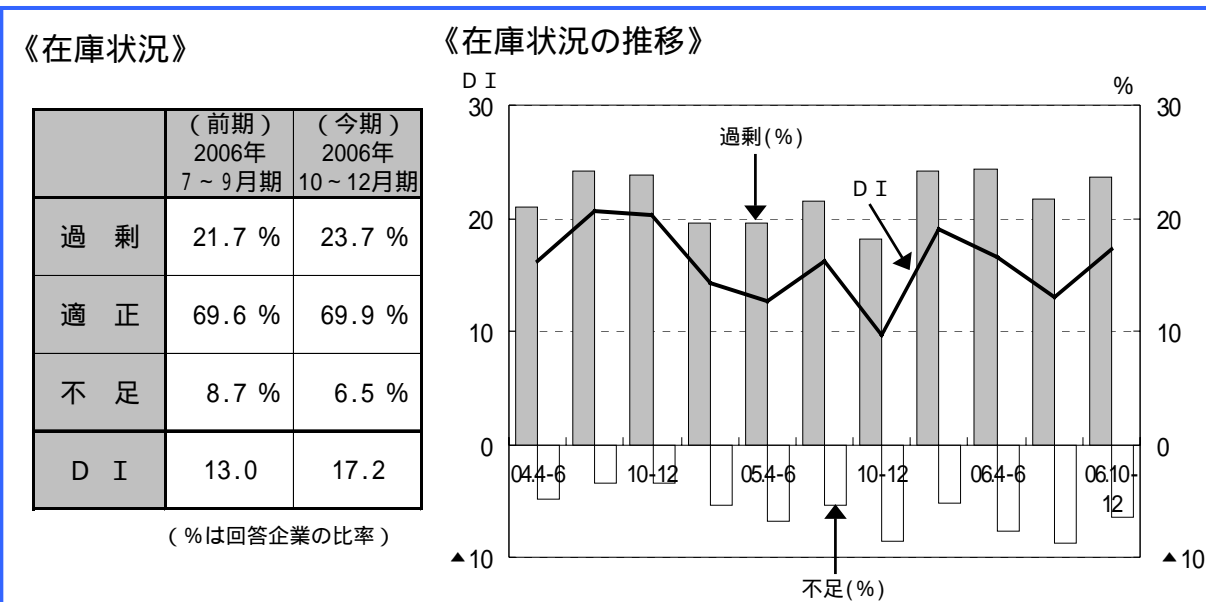


**在庫状況
(製造業)**

DIが上昇、食品など多くの業種で在庫過剰感が強まる

2006年10～12月期の在庫状況(製造業)は、「過剰」とする企業の比率が若干上昇、同じく「不足」が若干低下した。この結果、在庫状況DIは17.2(前期13.0)と上昇に転じ、在庫過剰感が強まっている。

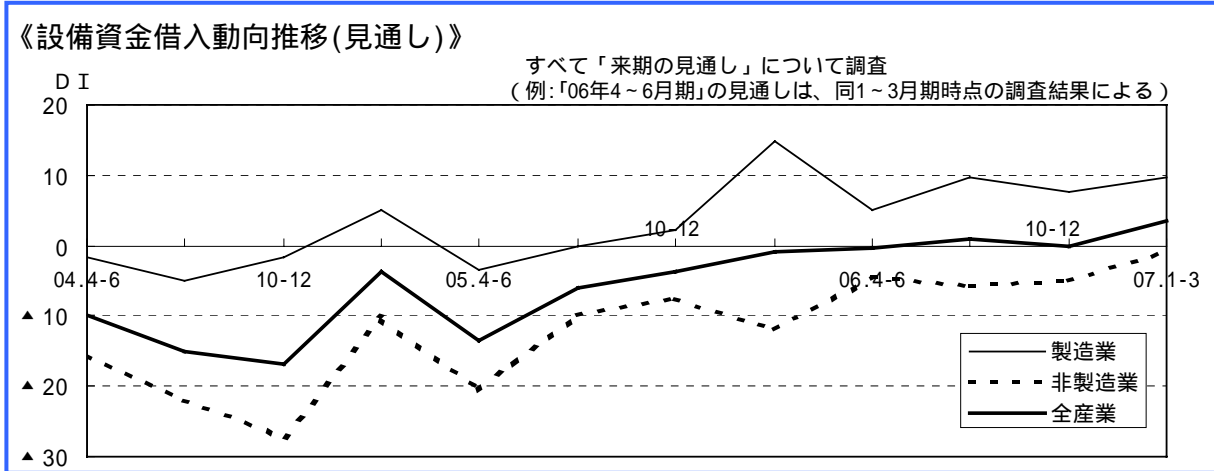
業種別では、パルプ・紙・紙加工品で16.7(同30.8)と過剰感が緩和されたが、食品では逆に21.4(同0.0)と「適正」から大幅な「過剰」に転じた。また、一般機械器具やその他製造業でも、過剰感が強まる傾向がみられる。



設備資金借入
動向(来期)

製造業と卸・小売・サービス業では借入増加基調に

2007年1～3月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)DIは3.6(前期0.0)とやや上昇し、借入増加の動きが若干強まっている。うち製造業は9.6(同7.6)とDIが若干上昇し、借入増加の姿勢が再び強まっている。一方非製造業でもDIは▲0.8(同▲4.9)とやや上昇している。内訳では建設業が▲16.3と依然借入抑制基調にあるが、卸・小売・サービス業では6.9と借入増加基調にある。



経営上の問題点

「原材料・仕入商品の値上がり」減少、人材関連の回答が増加

前期まで増加傾向が続いた「原材料・仕入商品の値上がり」の回答が各業種で減少し、全体では4位に低下した(ただし、製造業では依然として最も回答数が多い)。一方、「受注・売上の停滞・減少」「過当競争・製品安」が増加に転じ、販売・競争環境面での懸念が再び強まっている。また、「人材の育成」「従業員の高齢化」「人件費の増加」など人材関連の回答が、いずれも増加に転じている点が注目される。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	06年4～6月期		06年7～9月期		06年10～12月期		順位 変動
	企業	割合	企業	割合	企業	割合	
1. 受注・売上の停滞・減少	126	50.2	117	48.5	121	52.8	
2. 過当競争・製品安	109	43.4	89	36.9	87	38.0	
3. 人材の育成	92	36.7	83	34.4	83	36.2	
4. 原材料・仕入商品の値上がり	109	43.4	113	46.9	82	35.8	
5. 従業員の高齢化	46	18.3	46	19.1	60	26.2	
6. 生産・販売能力の不足	51	20.3	54	22.4	48	21.0	
7. その他経費の増加	41	16.3	50	20.7	42	18.3	
7. 人件費の増加	37	14.7	30	12.4	42	18.3	

《業種別：回答企業数およびDI》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	14	28.6	▲7.1	▲28.6	▲7.1	21.4	0.0
パルプ・紙・紙加工品	12	▲25.0	▲16.7	16.7	16.7	16.7	41.7
金属製品	15	46.7	40.0	▲20.0	53.3	6.7	20.0
一般機械器具	14	▲14.3	▲28.6	7.1	23.1	15.4	14.3
その他製造業	39	5.3	5.1	2.6	10.3	20.5	▲2.6
製造業計	94	8.6	1.1	▲3.2	17.2	17.2	9.6
旅館・その他宿泊所	15	42.9	0.0	-	-	-	20.0
その他小売・サービス業等	76	▲11.8	▲21.1	-	-	-	4.2
卸・小売・サービス業計	91	▲3.3	▲17.6	-	-	-	6.9
建設業計	44	▲11.4	▲34.1	-	-	-	▲16.3
非製造業計	135	▲6.0	▲23.0	-	-	-	▲0.8